

## 第 6 回（仮称）これからの図書館構想策定検討委員会 議事録

- 1 日時 令和 3 年 7 月 4 日（日）午前 10 時 30 分～午後 12 時 20 分
- 2 場所 貫井図書館 視聴覚室
- 3 出席者 野口委員長、長谷川副委員長、田倉委員、片岡委員、三澤委員、江島委員、湯澤委員、田村委員
- 4 事務局 教育振興部長、計画調整係係長、計画調整係職員
- 5 公開の可否 公開
- 6 傍聴者数 1 名
- 7 議事等
  - （1）議事確認
  - （2）議題
    - ・貫井図書館での取組について
    - ・練馬図書館での取組について
  - （3）その他
  - （4）次回の予定
- 8 配布資料
  - （1）第 5 回（仮称）これからの図書館構想策定検討委員会 議事録
  - （2）第 4 回・第 5 回検討委員会での意見

## 9 会議の概要

### (1) 議事確認

委員長より、資料1「第5回(仮称)これからの図書館構想策定検討委員会 議事録」に基づき、議事内容確認

(委員による議事承認)

### (2) 議題

- ・貫井図書館の取組について
- ・練馬図書館の取組について

## ○ 委員長

本日は、練馬区立美術館を含め、貫井図書館を見学いたしました。これまでの検討を踏まえながら、貫井図書館と練馬図書館について、それぞれ意見交換をしたいと思います。なぜこの2館を取り扱うのか、改めて事務局から説明をお願いします。

## ○ 事務局

貫井図書館と練馬図書館につきましては築35年を迎え、コロナの影響により延期にはなりましたが、大規模改修を予定しております。本日、見学いただきましたように、貫井図書館は練馬区立美術館、また練馬図書館は生涯学習センターを併設しております。本日は、改修に合わせ、併設施設としての特徴をハード面、ソフト面でどう生かしていけるのか意見を頂きたいと思います。練馬図書館については、本日配布した練馬図書館の概要資料にて、のちほど改めてご説明させていただきます。

## ○ 委員長

まずは貫井図書館について意見交換したいと思います。資料2「第4回・第5回検討委員会での意見」や、「練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会 提言」の内容を踏まえつつ、第2回検討委員会で参考資料として配布した「他自治体の事例紹介」も参考にして、自由に意見を出していただければと思います。

「練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会 提言」では、改修後の施設のコンセプトといたしまして、図書館と美術館が、空間的・機能的に融合するとしています。融合には空間的な面と機能的な面がありますが、機能的な部分を活動という意味で捉えますと、例えばイベント等を一緒に行うといった視点もあるでしょう。どのような形で融合を目指せるのか、様々な角度から意見交換できればと思います。

来館する方が、美術を、作品そのものだけでなく、図書館にある情報等を通して楽しみ、

深めることを目指していこうと、融合を提言されています。その点も踏まえ、意見交換したいと思います。

施設を見学し、皆さん感じられたと思いますが、もう少し広さが欲しいという印象がありました。今は図書館と美術館、2つの施設に分かれた複合の状態ですので、例えば、入り口は共通にして融合するなどが考えられます。美術館、図書館ともに核となるエリアは当然必要ですが、美術館内にも関連図書を展示し、美術館のカウンターでも本の貸出しを可能にするなど、融合することで相互乗り入れも目指せます。そのためには現状のように、1階は図書館、2階・3階は美術館と、階層で分けるのではなく、空間配置の見直し等の発想も必要かもしれません。

本日出た意見は、改修にどのような形で生かされるのでしょうか。

#### ○ 事務局

いただいた意見は、できるだけ反映したいと考えます。

#### ○ 委員長

このような図書館になったら使いたいと、率直なご意見、ご感想を自由に出していただきたいと思います。私は、美術館と図書館のそれぞれで資料が利用し合えるような環境ができれば良いと思いました。

#### ○ 委員

もう少し広さがあれば良いと思いましたが、コンパクトな作りの中で、様々なサービスや試みをされていて、大変素晴らしく感じました。私は以前、大学の美術館・図書館と、美術館の美術資料室に在籍しておりました。本日、初めて練馬区立美術館と貫井図書館を拝見し、親しみやすく、区民の皆さんにより近い施設なのだと感じました。美術館と図書館の融合ということですが、例えば、今行われているギャラリートークを美術館の学芸員ではなく、図書館のスタッフが行うなど、それぞれの資料が交差するような試みや、美術館の2階の渡り廊下の椅子が置かれたスペースを活用し、展示に関連した本を並べるなど、既存のサービスの強化でもできることはあると思いました。

#### ○ 委員長

美術作品のプロの目線ではなく、図書資料のプロの目線で美術作品を解説するというのは、大変斬新で、まさに融合という取組だと思います。

#### ○ 委員

美術館内に資料を配置するのではなく、渡り廊下等、美術館から一步出たところに置いた

方が、2つの施設がより深い関係になれると思います。創作や発表の場もあり、大変すばらしい施設ですが、知らない人も多いと思うので、もう少しアピールした方が良いと思います。また、近隣の商店街を取り上げた図書館での展示は、地域との結びつきという面でも大変良い試みで、ほかの図書館でももっと行った方が良いと思います。

#### ○ 委員長

地域との関わりにつきましては、これまでの検討委員会でも意見交換しましたが、そのひとつの形が貫井図書館にはありました。

#### ○ 委員

初めて来ましたが、子どもや大人、高齢者や障がい者等、様々な方を対象に近隣の施設と連携し、工夫も見られ、大変感心しました。ただ、展覧会に関する資料が端に配置されていたので、美術館の入り口に置けばもっと融合できると思いました。

#### ○ 委員長

美術館と併設している図書館として、図録のコレクションが一番の特色だと思います。そこをもう少しアピールすると良いということですね。あれほど揃っている図書館はあまり無いと思いますし、大変貴重で魅力的なコレクションでした。

#### ○ 委員

私も初めて来ましたが、どちらも素敵な施設だと思いました。1985年の開館時に、図書館と美術館をしっかりと分離させようという考えで設計され、それが今も引き継がれて運営されている印象です。たまたま建物が一緒にシェアをしているイメージです。それは良い面も悪い面もあると思いますが、それぞれが手狭だとの意見があるなら、シェアしていることが若干デメリットになっていると思います。融合を目指すのであれば、両館が融合していないと不可能な、デメリットを隠すくらいのメリットを作ることを考えると良いと思います。

#### ○ 委員

5年ほど前に来館したことがあるのですが、美術館にはまったく気がつきませんでした。やはり入り口は一緒にした方が気づきやすいと思います。美術館が手狭ということですが、ほかの美術館や博物館で行っているように、30分から1時間ごとに入場者数の制限を行い、図書館と美術館の間に関連資料を置くスペースを設け、読書しながら待ち時間を過ごしてもらうなども融合ではないかと思います。

貫井図書館は、商店街や近隣の施設等と連携しており大変素晴らしいと思いましたが、ほ

かの図書館とは連携しているのでしょうか。元JAXAの宇宙アドバイザーを迎えた小中学生向けイベントを行ったようですが、定員が18人というのは大変もったいないと思います。子育て中は、光が丘図書館へ行っていたのですが、このようなイベントはなく、羨ましく思いました。駐輪スペースも狭く、駐車場も無いこちらの図書館に、小さな子どもを抱え、遠くから来館するのは大変です。今後はほかの館にも中継できるような設備を設置し、ほかの図書館の視聴覚室等で中継すれば、特定の地域の子どものだけでなく、区民全体が平等に体験でき、図書館同士の連携にもなると思いました。ボランティアも後継者がどんどん減り、大変貴重な存在です。ボランティアによるおはなし会等も、ほかの館に同時に流すことが出来たら、コストパフォーマンスの面でも密を避ける面でも、良いのではないのでしょうか。以前、電子図書館についての話題が出たとき、著作権の問題があるとのことでしたが、映像に限ってだけ、電子図書館のようなものにアップロードするなど、一つのを多くの人でシェアできれば良いと思います。

## ○ 委員長

直接、ご家庭から視聴できる、YouTube ライブのような形で配信するのも、一つの方法かもしれません。もちろん著作権の問題等をクリアしてからの話になりますが、技術的にはできます。それを録画してアーカイブするのも、図書館ならではの視点かもしれません。すでにデジタルアーカイブの取組は行われておりますので、区内の図書館で行われた講演会アーカイブのようなものを構築し、動画のコンテンツをいつでも視聴可能な環境にすることも考えられるかもしれません。

## ○ 委員

貫井図書館長のお話を伺い、多方面に渡り、様々な企画が行われていることを知りました。館内も様々な点に配慮され、展示等、行われておりましたが、誰もが目につくスペースで、もう少し大々的に、今行われている展覧会の展示をされたら良いと思いました。

よく、この図書館を利用しますが、今日までこんなに大量の図録があることを知りませんでした。大活字本や図録等、しっかり収集されているのに、うまくアピールできておらず、美術館と連携はしていても融合はしていなかったのだと感じました。委員長の発言にありましたように、やはり入り口は一つにし、そこで展覧会の関連展示等ができれば、大変魅力的だと思います。

練馬区立美術館は、親子で見学できる展覧会も多いので、帰りに図書館に寄ってくれたら良いと思います。各館、ブックスタート事業で、乳幼児連れの保護者の方にぜひ図書館を利用してほしいと伝えているのですが、静かに新聞等を読んでいる方たちと同じ空間で、もし赤ちゃんが泣いたらどうしようと、敬遠してしまう方も多いようです。貫井図書館も、大人向けと児童向けでスペースを分けていますが、ワンフロアなので声は筒抜けです。改修の

際には、ベビーカー置き場や授乳室は児童コーナーの近くに設置し、平和台図書館のように子どもの声が漏れないよう自動ドアで仕切るなど、狭いながらも大人とのすみ分けは必要だと思えます。ここは駅からも近く、講演会を開くことも多いのですが、会議室が一つで、広くないため、大規模な講演会は行えません。先ほど、美術館を見学した際に、創作室がもう一つほしいという話や、もう少し広い多目的ホールが欲しいという話が出ましたが、美術館に多目的ホールを作られた場合、図書館が大きな講演会を行う時等は、図書館利用者も使用できるのでしょうか。予約の競争率が高いため、図書館側には視聴覚室と会議室が欲しいと前々からお願いをしております。「練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会 提言」を改めて読みますと、サンライフ練馬等も含め、地域一体を再整備するとのことですので、期待しております。コロナの問題もあり、改修規模の問題はあるでしょうが、せっかくやるなら中途半端ではなく、図書館も美術館も利用者にとって使いやすい施設になると良いと思えます。

#### ○ 委員長

空間的・機能的融合という視点から見ると、視聴覚室は図書館、創作室は美術館、との分け方でなく、共用であるべきです。そうでないと融合とは言えません。そのような視点で整備をイメージすると良いと思えます。

#### ○ 委員

そうすると、かなり利用者が多いので、視聴覚室や会議室等はいくつか欲しいと考えます。

#### ○ 委員長

現状の枠内では難しいので、周辺も含めての再整備を希望したいということですね。

#### ○ 副委員長

美術館側にある創作室はメリットだと感じます。もう少し多目的にして3Dプリンターなどを置き、創作活動を支援するメイカースペースにすることも可能ではないでしょうか。また、図書館と美術館の入り口を一つにし、図書館の資料を美術館にも自由に持ち出せるような環境があれば、美術館内に図書館資料を展示し、資料を読みながら鑑賞を行う、また、美術館側にも返却棚を設置すると返却忘れも防げるので、良いと思えます。

空間を融合させた場合、ウェブ上はどうなるのでしょうか。HPでもトップページは一つにして、そこから図書館と美術館それぞれに入っていくようにすれば、施設の融合とも合致すると思えます。資料の検索も、図書館と美術館の資料やコレクション等、関連したものは紐づけし、一緒にヒットすれば、もっと活用できると思えます。所蔵品データベースで検索すると関連図書も出て、その所在記号が書いてあると、興味を持った人は借りることができ

ます。そうすれば、どんどん知識を増やし、学びにつながられるのではないかと思います。

## ○ 委員長

先ほどのご発言にもありましたが、現状では美術館を認識していなかった方もいるわけですが、ここは図書館と美術館の機能の両方が利用できる施設であると、利用者にアピールする方法を考えるのも、良い取組になると思います。ミュージアムとライブラリーの連携である L 連携、あるいは M L A 連携など、最近は更に拡張された概念も提起されています。栃木県に「芳賀町総合情報館」という、図書館と博物館、文書館が融合した施設がありますが、入り口は同じです。この施設では、図書カウンターに学芸員が立つこともありますし、博物館の展示作業を図書館司書が手伝うなど、相互乗り入れを行っています。そのような視点も参考になると思います。

貫井図書館と練馬区立美術館は現状、複合型なので、それぞれ別の施設名を名乗っていますが、施設名称を一つにすることで、利用者への訴求力を高めるのも良いかもしれません。単純に、図書館と美術館をくっつけて、図書・美術館としても少々分かりにくいので、例えば芸術情報館ですとか、新しい施設として再整備したと訴えかけられるような施設名称にするのも一案だと思います。その際には、ウェブサイトも一緒にするなど、工夫も必要です。芸術作品とリンクし、読書に結び付けるなど、なかなか本を読まないと言われている中高生への、今まで無かった働きかけが提案できるかもしれません。融合しているからこそそのメリットを考えて、実際にサービス化していくことができると、新しいコンセプトの、図書館と美術館が融合した施設になる気がします。今は、連携していますがそれぞれ別の施設という位置づけです。融合したからこそできるサービスは何か、斬新なことがいろいろできそうですが、いかがでしょうか。

## ○ 委員

博物館等で、展示の途中に大型スクリーンで展示物の歴史や背景が映像で流れることがあります。美術館でも、作品の背景についてなどの映像をまとめ、図書館内の関連資料の所在なども入れ込んで流すと面白いと思いました。この本を読めばこれが分かる、この時代の方のこんな本があり、それは練馬区で何冊所蔵しているなど、映像を通して本を紹介する形です。

## ○ 委員長

美術作品を見ていると図書も借りたくなるということですね。そこまでやっている美術館はおそらく無いと思います。基本的に美術館には、美術館図書室があるところが多いですが、展示スペースとは別の部屋で、もう少し深く勉強したい人向けです。展示スペースで本の紹介を伴った映像を流し、紹介された本は、同じ施設内で借りることができる。それは面

白いアイデアです。

#### ○ 委員

美術館と図書館の要素をたくさん集め、共通項を探るしかないと思います。シンプルに思い浮かぶのは、コミケです。コミケとは、コミックマーケットの略で、参加者が表現者として、自分の思いなどを反映した作品であるコミックを見てもらう場です。美術館も文化的な表現を展示して見てもらう場です。展示会や展覧会をコミケとした場合、例えばコンテストを開催し、受賞作品は常時、図書館の一角に飾られ、また、作品は図書館内でゆっくり読めるようにするなど、両施設があることのメリットを考えると良いと思います。

#### ○ 委員長

北海道の「石狩市民図書館」では、額に入った絵画を所蔵しており、貸出ししています。図書館法では、美術品も図書館資料として明示されているのですが、絵を貸している図書館は初めて見学したので、驚きました。貸出期間は1か月なのですが、定期的に家に飾る絵を変えるなど、利用者も多いそうです。面白いアイデアだと思いました。それくらいの発想の転換があると良いです。

#### ○ 委員

中途半端な共存が一番良くないです。美術館が無くてはならない関係になり、共存しているからこそその強みを出していければ良いと思います。

#### ○ 委員長

従来からの連携でとどまってしまうと、融合施設ではないと思われてしまいます。融合により、今までにないサービスを提起できると、利用者も融合を体感できます。できるかどうかは別として、こんなサービスがあったら使ってみたいという意見はありませんか。

#### ○ 委員

図書館の入り口近くに、「アイデアを実現する」という特集コーナーがありました。美術館の創作室はまさにそのアイデアを実現する場だと思います。先ほど、副委員長が発言されましたが、予約なしでも使えるようなメイカースペースがあれば、実現を探るための資料もありますし、良いと思いました。

#### ○ 委員長

空間のあり方もそうですが、施設管理の手法自体も考える必要があるかもしれません。創作室等は基本的には予約制ですが、そうではなくて、やってみたいと思ったら、すぐに実現

できる空間だと良いですね。

## ○ 事務局

美術館も図書館も、非常に大事な役割を持つ施設です。作品があり、それを解説するものがあり、かつ更に深く理解させられるような手法が無いか考えます。練馬は市民活動も盛んなので、私もやってみたい、表現したい、という思いをどう活動に繋げていけるか、大きな視点で捉え、図書館と美術館の融合を考えると良いと思いました。

それから、先ほど副委員長の発言にあった、ウェブ上での融合ですが、現状では運営が違うため別々ですが、同じ管理下で運営できればより深く連携できると思いました。

## ○ 委員長

作りたいて思ってもらえるような場であり、作ったものが展示され、それがアーカイブによって蓄積され、それを見た人が私も作ってみたいと思うような好循環が生まれる空間。それを空間上だけでなく、ウェブ上でも提供できると良いと思います。そういう仕組みづくりが全体を通してできると良いかもしれません。

## ○ 委員

図書館を見学した際、お子さん向けに、大変力を入れている印象を受けました。昔からなのか、この地域の需要を見て力を入れているのか、どちらなのでしょう。美術館は、小さいお子さんより、ある程度落ち着いた年齢層の方が多いと思います。併設している図書館は、そのような層に力を入れた方がまとまりがあると思いました。

## ○ 委員長

そのようなコンセプトを決めた方が良いというのも一つの意見です。空間的な融合を考えると、静と動で分ける空間構成で考えたら良いと思います。子どもは静かにできないからと敬遠するのではなく、一緒に楽しめる芸術作品もあります。むしろそういうことをもっとアピールしていくと良いと思います。1階の入り口近くのスペースは、多少声を出しても良い空間で、子どもも一緒に楽しめる芸術作品や絵本を置くなどし、2階、3階に行くにつれ、静かなスペースを保つような環境で、階層によって静と動を分けるという発想もあります。

## ○ 委員

立川市に「PLAY! MUSEUM」という、子どもが楽しんで美術作品に触れられる施設ができました。美術館は静かに、ではなく、すみ分けができれば良いと思います。貫井図書館の隣には、美術の森緑地もあり、大変多くの親子連れが利用しています。以前、ねりま地域文庫読書サークル連絡会の50周年記念展示を行った際、多くの親子連れが緑地とつな

がる入り口から入り、見てくださいました。隣に小学校もありますし、子どもはやはり外せないと思います。美術館でも、子ども向けワークショップ等行っておりますし、静と動のすみ分けをきちんとして、親子連れも心置きなく楽しめる空間にすると良いと思います。

#### ○ 委員長

声が出せて、美術作品を楽しめ、本が読めるという空間も当然求められますが、静かに読みたいというニーズも尊重されるべきです。その辺をどのようにすみ分けられるか、それができる空間づくりが期待されます。

#### ○ 委員

美術館の学芸員と図書館の司書も同じスペースにいれば、企画のアイデアを出し合うなど、意見交換もしやすいと思います。

#### ○ 委員長

事務スペースも一体化し、美術館と図書館の専門職が相互に意見交換して、一つのイベントや企画を作り上げるのですね。

#### ○ 委員

私が在籍していた大学の美術館・図書館は、同じスペースで仕事をしておりました。図書館司書が美術館の資料を出したり、展示に直接関わることも多かったです。各々別の仕事はしているものの、気軽に意見交換できるなど、連携ができるのは良かったのですが、負担が大きくなる部分もあります。

#### ○ 委員長

希望を言えば、各々が負担にならないように人員は少し多めに、一緒の施設だから半分が良いとはならないように配置する必要があります。お互いの機能を高め合える人材をどれだけ配置できるかという視点が重要です。

#### ○ 委員

貫井図書館は、対面朗読室の利用が大変多いとのことですが、視覚障がい者の方だけでなく、知的障がい者など、様々な障がいを持つ方へ向けて、日常的に利用できる図書館と美術館にしていただけたらと思います。

#### ○ 委員長

貫井図書館では対面朗読室のほか、大活字本のコレクションも充実させていました。美術

館や博物館でも、ユニバーサルミュージアムといいまして、立体的な彫刻等は、可能な限り触れられるようにするという考え方も出始めています。障がいの有無に関係なく、誰もが楽しめる図書館・美術館というユニバーサルサービスのコンセプトは、とても重要です。今まで日常的に図書館に来て読書していたのが、高齢で急に視力が弱くなり、もう読めないからと来館するのが辛いとおっしゃる方も多いです。そういう方にもおすすめできる図書館になっていくと良いですね。また美術作品も、視覚障がい等があっても楽しめる展示の工夫ができると思います。

#### ○ 委員

対面での朗読に関してですが、コロナの問題もありますし、利用を控える方も多いかもしれません。あらかじめ朗読を録音してアーカイブしておけば、利用しやすいと思いました。

#### ○ 事務局

図書館にはすでに、デジタル録音資料としてDAISYがあります。

#### ○ 委員長

ただ、DAISYはそこまで膨大なタイトルがあるわけではないため、対面朗読のニーズは常にあると思います。

#### ○ 委員

音訳ボランティアをしていますが、リモートでも良いのではと考えたことがあります。でも、視覚障がい者の方にとっては、ヘルパーさん等と一緒に来館することも、外に出て人と接する大切な場です。リモートの場合は、本を選んで、読んでもらうということだけで完結してしまうため、対面朗読は、人と接することで社会とのつながりを感じたい部分もあるのではと考え直しました。障がい者の方が来て、お子さんが話している声が聞こえたり、自然とほかの人を感じられるような、くつろぎのスペースがあれば、直接の関わりじゃなくとも、交流できます。それも融合の一つだと思いました。

#### ○ 委員長

共通のスペースは、まさにそのような触れ合いができる形で作れると思います。

#### ○ 委員

同居されている家族にとっても、1週間に1回程度、ほんの少しゆっくりする時間ができるかもしれません。また障がい者の方にとっても、外に行くという気力が生まれるのではと考えます。

## ○ 委員長

お一人で暮らしている高齢の方も、図書館に来て、自分と同じように読書している人がいるだけで心が落ち着くこともあると思います。ユニバーサルサービスは今後、必須です。障がいの有無や年齢に関係なく、誰もが芸術に触れられるような環境をどう作るのか、施設全体のサービスとして考えていくことは大切です。

## ○ 委員

皆さんの意見をまとめると、美術と図書という形式やジャンルではなく、アクションで分けるというのが、共通した意見だと思いました。例えば、美術館と図書館ではなく、鑑賞館と交流館など、図書も美術も文化や作品として捉え、それを受けてどうアクションするかで空間を分けるのです。そうすると、おしゃべりできる部屋も作れますし、静かに勉強できる部屋も作れます。自分で何かを表現する場と、それを受けて鑑賞する場、今後はもしかするとアクションで分ける時代になるかもしれません。本もデジタルも媒体の違いはあれど、本質的には文化であり作品です。先ほど意見に出ました、読み聞かせの動画配信サービス等を利用して交流館で交流するなど、アクションで分けると面白いと思いました。

## ○ 委員長

先ほど、ML連携について触れましたが、これまでは図書館、美術館、博物館、すべての所蔵資料は別という考え方で、利用する側もそう捉えておりました。それをすべて文化情報資源、つまり作品として、共通の資料として捉えるという時代の流れになってきています。その中でどう交流し、どのような鑑賞方法が可能か、本日皆さんから出た意見もここにうまく整理できる気がします。

## ○ 委員

美術館と図書館のシンボルマークを、デザイン面でも統一を図ると良いと思います。アクションがキーワードでしたら、例えば「読む」、「見る」等のキーワードを各部屋に設けるなど、美術館と図書館それぞれが独立するのではなく、創作はここ、調べものはここ、など、アクションを盛り込んだ、ユニバーサルな視点のサイン計画も面白いと思います。

## ○ 委員長

「読む」、「見る」、「作る」、「触れ合う」など、アクションでゾーニングするのですね。さらに、2階3階の階層ごとに同じようなコンセプトの部屋を設け、ここは静かに過ごしたい人、ここは子ども向け、ここは声を出しても良いなど、視点で分けるのも面白いかもしれません。

○ 委員

そのようなサインも作れば良いと思います。マナーモードのアイコンのように、誰にでも分かりやすいサインを設け、部屋を分ければ、誰でも一目で分かりやすいと思います。

○ 委員長

サイン計画から融合施設として意識するのですね。

○ 副委員長

創作室は人気があるという話でしたが、部屋を丸ごと貸すのではなく、何区画かに分け、複数のグループが同時に活動できるようにするののも一つだと思います。そうすれば、自分が活動しているときにほかのグループの活動も見られ、交流も可能だと思います。

○ 委員長

空間そのものをどうアクションに結び付けていくか、アプローチの仕方はいろいろありそうです。図書館、美術館がお互いできそうなことを一体的に捉え、先ほど出た「読む」、「見る」、「作る」などのアクションでゾーニングしたときに、そこで何ができるのか、利用者をうまく導いていけるよう、スタッフがどう働きかけできるのかがカギになりそうな気がします。

○ 委員

一番の課題は、一般の人が考える図書館や美術館に対する固定観念です。新しい施設として、完全に新しいことをやるという気持ちでやらないと、誰も来ない館になってしまうかもしれません。

○ 委員長

先ほど、ネーミングの話をしました。図書館というと、どうしてもそのイメージに引っ張られてしまいます。「練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会 提言」でも、融合が示されておりますが、美術館側でも今回の意見と近いものがあったと認識してよろしいですか。

○ 事務局

はい。

## ○ 委員長

この考えを練馬区全体の図書館にということではなく、貫井図書館をモデル館として、面白いアイデアが生かせる施設として捉える考え方で良いと思います。

貫井図書館に関しまして、ほかにも何か意見がありましたら、個別に事務局へ寄せていただきたいと思います。続きまして、練馬図書館について意見交換したいと思います。

## ○ 事務局

本日、参考資料として配布いたしました練馬図書館の概要資料に基づき、簡単にご説明いたします。

練馬図書館に行かれたことのある方も、まだ無い方もいらっしゃると思いますが、こちらでも築 35 年を迎えました。1 階に図書館と生涯学習センターのホール等があり、2 階に調理実習室や和室等、生涯学習センターの諸室がございます。改修後の施設のコンセプトといたしまして、「静と動の空間」、「採光を意識」、「書架を広く」等があります。現在は、生涯学習センターが行った事業に対し、関連本を展示するなどの連携をしております。

練馬図書館はすでに実施設計まで終えておりますので、ハード面ではなくソフト面でどのような取組ができるか、生涯学習センターとの連携も踏まえた意見を頂ければと思います。

## ○ 委員長

参考資料にあるのは現状の図面で、改修後も図書館と生涯学習センターのスペースは別なのでしょうか。

## ○ 事務局

現状の図面であり、改修後も、生涯学習センターとは別のスペースです。図書館の既存のスペースの中で、静と動を意識した空間づくりや、書架のスペースを広く取るなどを考えております。

## ○ 委員長

すでに設計が済んでおりますので、複合型の施設の中で、ハード面ではなくソフト面で何ができるか、意見を出していただければと思います。

生涯学習センターというのは、他自治体でいうところの公民館に当たる機能ということでしょうか。

## ○ 事務局

そうです。

○ 委員長

図書館も生涯学習センターも、どちらも社会教育の要になる施設です。調理実習室や工芸室もありますし、一緒にできることはいろいろありそうです。

○ 副委員長

1階のホールは、どのような活動に利用されているのでしょうか。

○ 事務局

こちらは生涯学習センターの施設で、音楽会や、中学生による英語劇の発表等に利用されております。

○ 委員

入り口は共通ですが、左に図書館、右に生涯学習センターと分かれております。

○ 委員長

図書館側が共通の入り口に少しせり出ていると、両方意識できて良かったと思いましたが、すでに設計は決まっております。ソフト面でいかがでしょうか。

○ 事務局

生涯学習センターで行われる催しの関連資料の展示などで連携を図っておりますが、ほかに何か連携した取組はできないかと考えます。

○ 委員長

図書館で料理の本を借り、それを参考にしながら調理するなど、利用者の実態として、図書館の本を生涯学習センターのいろいろなスペースで、自身の生涯学習活動に生かせるなどの誘導性はあるのでしょうか。

○ 委員

一昨年、ねりま地域文庫読書サークル連絡会の50周年記念講演会をこちらのホールで行った際、練馬図書館に協力していただき、講師の関連本等を団体貸出として借り、展示させていただきました。通常は生涯学習センターの諸室は貸し部屋という形です。また、競争率も高く、会議室等もなかなか借りられません。もう設計は済んだとのことですが、図書館にある読書会室は小さすぎて学習会にも使えないので、少し広くなると良いと思います。平面図上では、工芸室や調理実習室等もあり、いろいろなことができると考えますが、実際は競

争率も高く、思うようには使えません。また、職員も別なので、融合といってもなかなか難しいと思います。

○ 委員長

区民の方の利用スタイルとして、図書館で借りた本等を日常的に生涯学習センターのいろいろなスペースで活用しながら学びを深めているなどがあれば、図書館として特に意識した共存の取組等は考えなくても良いと思ったのですが、現状は必ずしもそうではないようです。

○ 事務局

現状では、図書館の本を、生涯学習センターに自由に持ち出せるシステムではありません。

○ 委員長

貸出しシステムを通さずに、生涯学習センターに持っていけると紛失のリスクも当然出ます。その辺も含め、運用面でも何か新たに考えられることがあるかもしれません。

○ 委員

生涯学習センターという名称にしたのは、きっと運用面からですね。図書館の方が管理するのであれば、生涯学習ルームで良いはずです。センターということで、あえて別の施設とした印象を受けます。改修後も、同様の運用を考えられているのでしょうか。

○ 事務局

練馬図書館に関しては、貫井図書館と違い、建物が古く雨漏りがひどいから改修するという考えで、増築をすることは考えておりませんし、融合ということまでは思い及んでおりません。先ほど、委員長の発言にありましたように、館内での本の持ち出しを自由にするなど、要望があれば次のステップとして検討したい考えです。

○ 委員長

図書館と生涯学習センターの担当は、別なのでしょうか。

○ 事務局

管理している部が違うため、運営も別になっております。

○ 委員長

図書館の入り口には、貸出し手続きをしないで資料を持ち出すと警告音が鳴るブックデ

イテクションシステムがあります。置きっぱなしにされた本を回収に行く手間は発生してしましますが、このゲートを共有の入り口に移動することで、本を自由に持出し可能にし、調理実習室で参考にしながら料理等ができると良いかもしれません。

#### ○ 委員

貫井図書館との比較で言うと、練馬図書館は学びがテーマの図書館なのでしょうか。その場合、セミナールームが充実していることや、料理教室を多くやっているなどのアピールができると、生涯学習センターとの複合施設ということが生かせると思います。

#### ○ 委員

練馬図書館は「レファレンス協同データベース」で活発にレファレンス事例を公開し、国立国会図書館から表彰を受けましたよね。地域の図書館利用者の方や作家さん等も、こちらを頼りにして頻繁に利用されていると伺いました。これは練馬図書館の特徴だと思います。ただ生涯学習センターを定期的にご利用されている方たちをあまり存じ上げないので、その方たちは図書館のレファレンス機能等を活用されているのかなと考えます。

#### ○ 事務局

生涯学習センターを利用されている方のほとんどが、定期的にご利用されております。

#### ○ 委員長

生涯学習センターを利用されている方向けに、それぞれの活動テーマに合致したブックリスト等を提供するというのはいかがでしょうか。こういうテーマの本を練馬図書館や区立図書館全体で所蔵しており、利用できるなど、活動されているときに手渡すでも良いですし、ウェブ等を通して配信するののも一つだと思います。そのような形で、図書館側から生涯学習センターを利用しているグループの方に、図書館を使うと更にその活動が充実しますという情報提供サービスをするのも良いと思います。

#### ○ 副委員長

図書館の方が作ったパスファインダーのような資料を、廊下や通路など、目につく場所に置くというののも一つだと思います。

#### ○ 委員

入り口に、いろいろな情報を置く場所があるので、可能かもしれません。

### ○ 委員長

直接2階の調理実習室や会議室へ行ってしまう方も多いと思うので、2階の目立つスペースに置いておくというのも手かもしれません。

### ○ 委員

先ほど副委員長の発言にありましたように、生涯学習センターでのグループ活動が見えるようにして、図書館に来た方たちが、活動に興味を持ったり、また逆に活動している人たちが、図書館にはこんな関連資料があるのだと気づいたり、相乗効果や好循環をもたらしていければ良いと思います。

### ○ 委員長

美術工芸室で、貫井図書館所蔵の美術コレクションをPRするコーナーを作るなど、練馬図書館だけでなく、区内の各図書館の特性、強みを、それぞれの学習活動に生かしてもらえるようなアピールができると良いと思います。先ほど、各図書館での取組がなかなか共有されていないという話がありましたが、生涯学習センターで、各図書館の講演やイベントを発信できると良いかもしれません。

### ○ 委員

元JAXAの方を招く人気イベントなどは、生涯学習センターを利用して催すなど活用していただき、練馬の図書館をアピールするのも良いと思います。子育て中の場合、移動も大変なので、良いイベントは中継等もあれば良いと思います。

### ○ 委員長

許諾は必要ですが、生涯学習なので、区内各図書館の講演やイベントをエントランスホールで映像として流すなどができると良いかもしれません。

### ○ 委員

中継があれば、アクセスの良い図書館で参加しようとする親子連れも多いと思います。

### ○ 委員長

それもソフト面での連携の一つです。練馬図書館だけでなく、区内の図書館全体との連携で、実現可能かもしれません。

### ○ 委員

生涯学習センターをより魅力的にするためにはどうしたら良いか、という話をすると良

と思います。僕がもし、こちらの生涯学習センターを活用するなら、昔の小中高の学校のカリキュラムをそのまま大人が体験できる講座を開きたいです。学生当時は、勉強は面白くないと思っていましたが、今やると面白いと思います。

○ 委員長

練馬区の図書館には教科書コレクションもありますし、活用できますね。

○ 委員

生涯学習センターで行われた過去の催しをまとめたファイルのようなものはあるのでしょうか。もし無いのであれば、ポスターやチラシ等、記録となる何か1枚をテーマごとにファイリングするなどして図書館に保管し、来館された方が過去の催しを知ることができれば、生涯学習センターに興味を持つきっかけになるかもしれません。今まで行ってきた記録からサービスにつながれば良いと思います。

○ 委員長

生涯学習センターで取り組んできた学びの成果を、図書館で蓄積するのですね。

○ 委員

男女共同参画センターえーるには図書室があり、生涯学習センターもあります。そこで定期的に活動されている方たちはクローズドで、情報を外に出さない団体も多いです。以前はこういうことに興味があり、どういう団体があるかと聞くと教えてくれたのが、今は個人情報だからと教えてもらえません。各団体情報を開示している場合だけ、見学会等ができることでした。生涯学習センターといっても、単なる場所貸しのような感じです。図書館でもし、その取組が見られるファイルのようなものがあれば、興味を持つきっかけになるかもしれません。

○ 委員長

生涯学習センターで活動している方の活動内容等を図書館で蓄積して公開できると良いですし、図書館の資料を生涯学習センターの活動に生かせる相互乗り入れができると良いと思います。今後、そのような仕組みづくりができると良いですね。

残念ですが、時間となりましたので、ほかにもご意見等がありましたら、各自事務局にご連絡ください。

( 3 ) その他

○ 委員

今後の検討委員会の流れは、どのようなものでしょうか。

○ 事務局

皆さんから様々な意見を頂きましたので、その中からさらに意見を頂きたいところについて、深掘りして伺いたいと考えております。その辺りも踏まえ、どのように進めていくかを検討中です。

( 4 ) 次回の予定

閉会